Owner's Manual

Digital Piano PW 360

このたびはカワイ電子ピアノPW360をお求めいただきましてありがとうございました。

カワイ電子ピアノPW360は、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った楽器作りのノウハウから生まれた画期的な鍵盤楽器です。

木製鍵盤使用による自然なピアノタッチの追求、鍵盤を弾く強さにより、音色、音量を幅広く変化させるタッチレスポンス機能、さらに伝統的ないくつかの調律法による調律セッティングまで装備し、幅広い音楽ジャンルにおいて、本格的な演奏を楽しむことができます。

また、電子楽器の統一規格であるMIDI機能も装備しており、MIDI端子のついた他の楽器とのアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

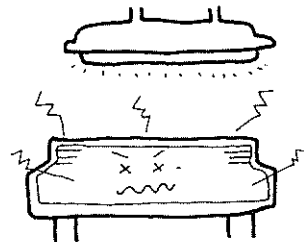
本機の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後もこの取扱説明書を保管し、わからないことがでてきたときなどに御利用いただければ幸いです。

ご使用上の注意

●電源について

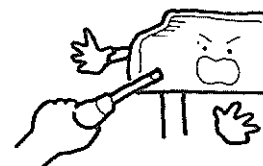
電源は必ず家庭用100Vのコンセントを御使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。

●雑音について

モーターやネオンサイン、蛍光灯などが近くにありますと雑音の原因となりますので、本体の位置を変えてください。

●電源プラグ、コードの取り扱い

電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、御注意ください。また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因になりますので御注意ください。

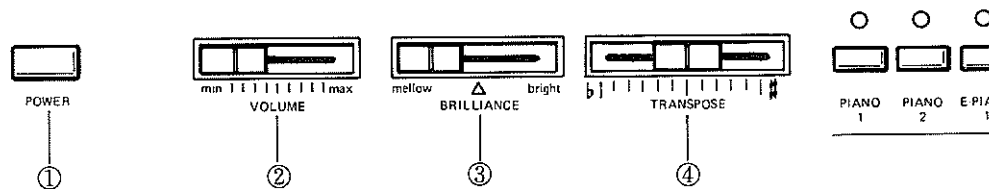
●故障等の注意

内部を開けて部品を取りはずしたり、改造したりすることは大変危険ですので絶対にやめてください。故障したと思われたときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまで御連絡ください。

●使用後の御注意

使用された後は、電源を必ず切ってください。
長時間、電源をいれたままにしておくのは思わぬトラブルの原因となりますので御注意ください。

目　次

■各部の名称と働き

●フロントパネル

①POWER（パワースイッチ）
電源をON/OFFするスイッチです。長時間ご使用にならない時は、電源を切ってください。

②VOLUME（ボリュームコントロール）
音量を調節するツマミです。MAX側で内蔵スピーカーの音量が最大となります。

③BRILLIANCE（ブリリアンスコントロール）
音色にメリハリをつけるツマミです。Mellow側にするとソフトで豊かな音色になり、Bright側にするとシャープで輝きのある音色になります。センター位置で通常状態となります。

④TRANSPOSE（トランスポーズ）
トランスポーズは、1オクターブ内の移調が簡単にできる機能です。この機能を使用すれば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。

⑤音色セレクトボタン/音色表示
音色を選択するボタンです。演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。押された音色ボタンのLEDが点灯します。

⑥TREMOLO（トレモロ）
このボタンを押してLEDが点灯すると、心地よいゆらぎを与えるトレモロ効果が得られます。なお音色によっては効果の具合が異なったりします。

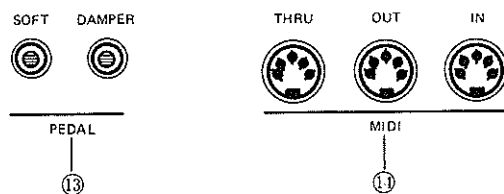
⑦CHORUS（コーラス）
このボタンを押してLEDが点灯すると、音に広がりを与えるコーラス効果（ゆっくりとした音の広がり）が得られます。

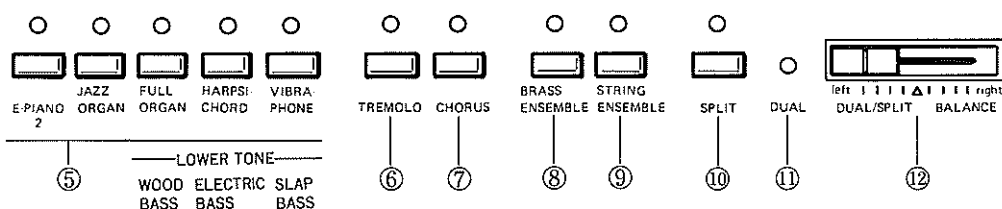
⑧BRASS ENSEMBLE（ブラスアンサンブル）
⑨STRING ENSEMBLE（ストリングアンサンブル）
共に⑤の音色セレクターと同じですが、この2つの音色には、トレモロ、コーラスの効果は得られません。

●リアパネル

⑬PEDAL SOFT/DAMPER
ダンパーペダル、ソフトペダルを使用するときに接続する端子です。
★ソフトペダルを踏み込みながら、電源をONにすると、ソフトペダルがソステヌートペダルとして使えます。

ダンパーペダル　　：鍵盤を離しても音が余韻をもって消えていくサスティンがかかります。
ソフトペダル　　　：音色がやわらかくなり音量も小さくなります。
ソステヌートペダル：押鍵後、指を離す前にペダルを踏むとその音だけサスティンがかかります。

⑭MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器等を接続するための端子です。

IN　：外部からのMIDI情報を入力（受信）する端子です。
OUT：本機からのMIDI情報を出力（送信）する端子です。
THRU：受信したMIDI情報をそのまま出力する端子です。

⑮LINE IN（ライン入力端子）
他の電子楽器やカセットデッキ等の出力端子とこの端子を接続しますと、本機ピアノ本体のスピーカーからその機器の音が出力します。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんので、それぞれの機器側で調節してください。なお、モノラル信号は、L/MONO側に入力してください。

⑩SPLIT（スプリット）

このボタンを押して、LEDが点灯すると、指定されたスプリットポイント（フロントパネル上に表示されています）を境にして、高音側と低音側で異なった音色の演奏をすることができます。
スプリットポイント、音色の設定については13ページを参照して下さい。

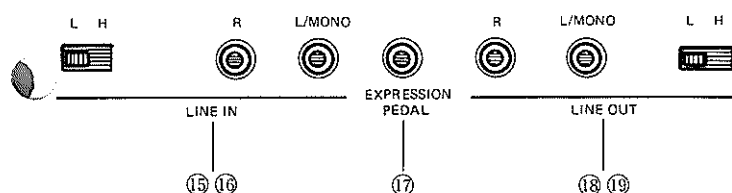
⑪DUAL（デュアルLED）

このLEDは、音色ボタンを2つ同時に押すことにより点灯します(2つの音色を同時に出力することができます)。デュアルモードを解除するには、他の音色ボタンを押すか、どちらかの音色ボタンを再度押すことにより解除できます。

⑫SPLIT/DUAL BALANCE（スプリット/デュアルバランスコントロール）

このコントロールツマミは、スプリットモードとデュアルモード時で、動作が異なります。

・スプリットモード時では、低音側と高音側をバランスコントロールします。Left側にすれば低音側の音量バランスが大きくなり、Right側にすれば高音側の音量バランスが大きくなります。

・デュアルモード時では、２つの押されたスイッチの左側音色と右側音色の音量バランスをコントロールします。例えば、PIANO I とVIBRAPHONEのLEDが点灯しているデュアルモードの場合、左側がPIANO I、右側がVIBRAPHONEになります。また、ツマミをLeft側にすればPIANO I の音量バランスが大きく、Right側にすればVIBRAPHONEの音量バランスが大きくなります。

⑯LINE IN L/H（入力レベル切換スイッチ）

ラインインの入力信号レベルを切り換えるスイッチで、入力が大きい場合にはスイッチをL側に、逆に入力が小さい場合にはH側でご使用ください。

⑰EXPRESSION（エクスプレッション）

エクスプレッションペダルを使用するときに接続する端子です。このペダルを使用した場合、LINE INに入力された信号も音量調節できます。

⑱LINE OUT（ライン出力端子）

本機の音を他の外部機器（アンプ、ステレオ）等で聴いたり、テープデッキ等で録音する場合に使用する出力端子です。本体のボリュームで信号レベルを調節できます。なお、モノラル信号は、L/MONO側から出力します。

⑲LINE OUT L/H（出力レベル切換スイッチ）

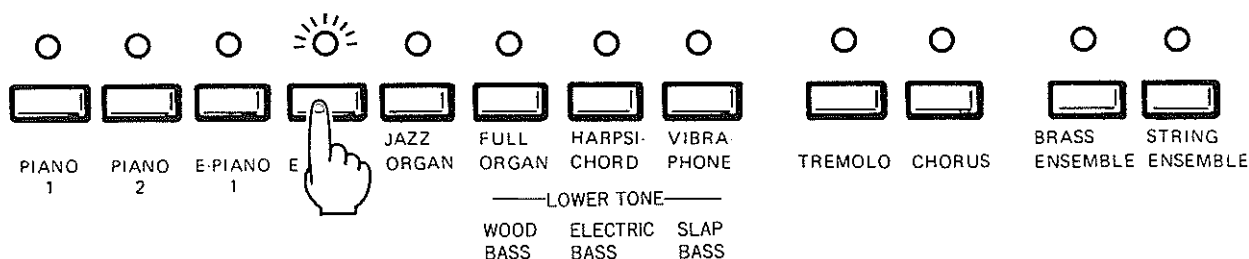
ラインアウトの出力信号レベルを切り換えるスイッチです。スイッチをH側にすると、出力レベルが大きくなり、L側にすると、出力レベルは小さくなります。

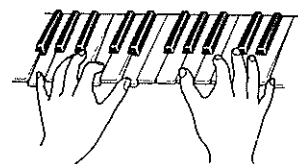
■演奏してみましょう（基本操作）

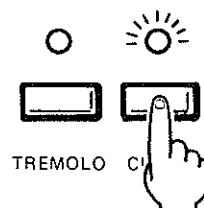
ここでは音を出すまでの手順を説明します。

手順①：POWERスイッチがOFFになっていることを確認してから電源コードをAC100Vのコンセントに差し込みます。

手順②：VOLUMEが〝MIN〞になっていることを確認してPOWERスイッチをONにします。

手順③：音色セレクトボタンからお好きな音色ボタンを選択して押してください。押された音色のLEDが点灯します。POWER ON後、音色ボタンを選択しない場合には自動的にPIANO 1の音が選択されます。
また、2つの音色ボタンを同時に押せば、デュアル演奏が可能です。但し、同時発音数は、16音ありますが、デュアル演奏の場合は、半分の8音になります。

手順④：VOLUMEツマミを調節して、中央付近にセットしてください。
他のツマミもすべて中央にしてください。

手順⑤：鍵盤を弾いてみましょう。選択された音色が出ましたね。それでは、音色をいろいろ切り換えて弾いてみてください。複数の鍵盤を同時に押した場合、16音（16音ポリフォニック）まで発音します。（WOOD BASS、ELECTRIC BASS、SLAP BASSの3音色は、次ページのスプリット使用時のみ、低音側の音色として選択することができます。）

★音色ボタンを切り換える時「音色セレクトのネクスト機能について」をご参照ください。

手順⑥：トレモロやコーラス効果を加えてみてください。音に広がりができ、心地良い響きを創ります。曲想に応じてご使用ください。なお、音色によって効果が得られなかったり、効果が異なる場合もあります。

★音色セレクトのネクスト（NEXT）機能について

本機には、音色セレクトのネクスト機能がついています。鍵盤を押したままの状態またはダンパーペダルかソステヌートペダルを踏んでいる状態で、別の音色ボタンを押しても、音色は現在のままかわらず、新しい音色のLEDが点滅します。このランプの点滅は、鍵盤またはダンパー / ソステヌートペダルがOFFになるのを待っている状態です。鍵盤またはダンパー / ソステヌートペダルを離すと、LEDが点滅から点灯に変わり、音色がこの時点で切り換わります。この機能により、自然でスムーズな音色切り換えが行なえます。

★スプリットの音色選択方法

スプリットボタンを押し、LEDを点灯させます。この時、スプリットポイント（フロントパネル上に SPLIT POINT ▼ で表示されます）を境にして、低音側と高音側に分かれます。現在選ばれている音色が高音側となり、LEDが点灯します。また、低音側の音色は、初期設定されているWOOD BASSのLEDがゆっくり点滅します。

高音側（LED点灯）の音色は、音色ボタンを押すだけで変更できますが、低音側（LED点滅）の音色は、スプリットボタンを押しながら音色ボタンを押します。低音側の音色として、FULL ORGAN、HARPSICHORD、VIBRAPHONEのLEDを点滅させたときは、これらの音色は、低音側の音色にはならず、それぞれWOOD BASS、ELECTRIC BASS、SLAP BASSが低音側の音色になります。高音側、低音側の音色変更の際、NEXT機能も働きます。高音側、低音側の音量バランスは、バランスツマミで調整できます。

注）

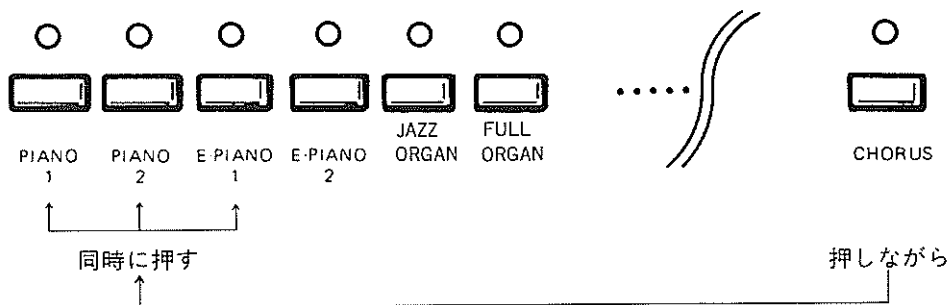
①デュアルモードからスプリットモードに移ると、２つの音色の内、右側の音色が高音側の音色になります。
②スプリットをOFFにしないとデュアルモードには切り換わりません。
③一度設定した低音側の音色は、電源を切らない限り記憶しています。
④スプリットポイントを変更する場合は、13ページの「スプリットポイントの変更」を参照ください。

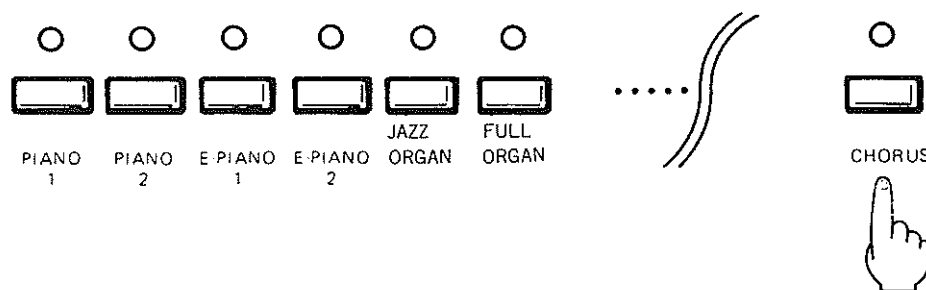
■各機能の設定モード

設定モードとは、電子ピアノのチューニングや音律の設定、スプリットポイントの設定、各種MIDI機能の設定を行なうモードのことです。これらの設定は、電子ピアノのパネル上のスイッチと鍵盤を使って行ないますので、説明をよく読んで、設定方法を理解してから行なってください。設定モードでは、下記の機能の設定ができます。

①プログラムナンバー送信（黒鍵使用）と、音色セレクトボタンによるプログラムナンバー送信のON、OFF
②MIDI送受信チャンネル及びマルチティンバーモードON、OFF
③ローカルコントロールON、OFF
④チューニング調整
⑤音律（種類、調）
⑥スプリットポイントの変更

●設定モードへの入り方

CHORUSのボタンを押しながら、PIANO 1、PIANO 2、E.PIANO 1の3個のボタンを同時に押します。ボタンから手を離すとCHORUSとPIANO 1のLEDが点滅を開始し設定モードに入ったことを示します。設定モードに入ると、鍵盤を押しても音が出なくなります。

●設定モードからの抜け出し方

CHORUSのボタンを押します。LEDの点滅が消え、設定モードが解除されます。

設定モードの説明に入る前に、MIDI機能について説明しましょう。

1 MIDI機能

●MIDIについて

MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電子、電気楽器間を接続するための世界統一規格です。

MIDI機能を装備した楽器間では、鍵盤情報や音色情報などを相互に交換し合うことができます。

カワイ電子ピアノには、MIDI端子（IN、OUT、THRU）が付けられており、鍵盤情報や音色情報などを送、受信できるようになっています。

[1] 電子ピアノPW360のMIDIでできること

①鍵盤押鍵情報の送信、受信

②ソフトペダル、ダンパーペダルのON/OFF情報の送信、受信　ソステヌートペダルの送信

③プログラム（音色）ナンバーの送信、受信　（7ページ参照）

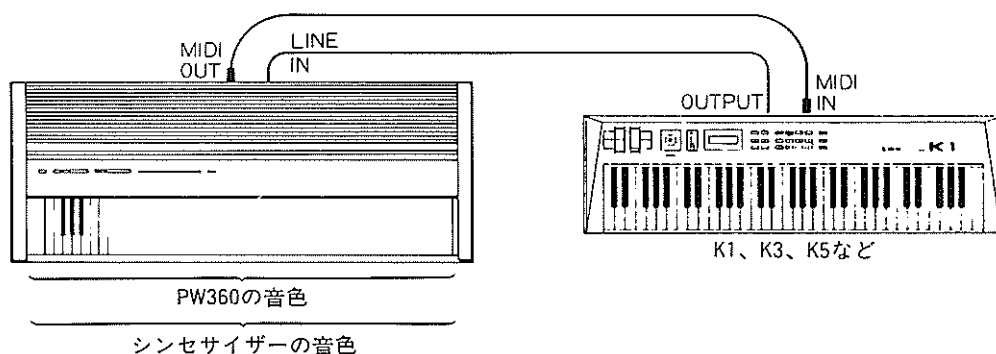
④MIDI送信、受信チャンネルの設定（1～16）　（9ページ参照）

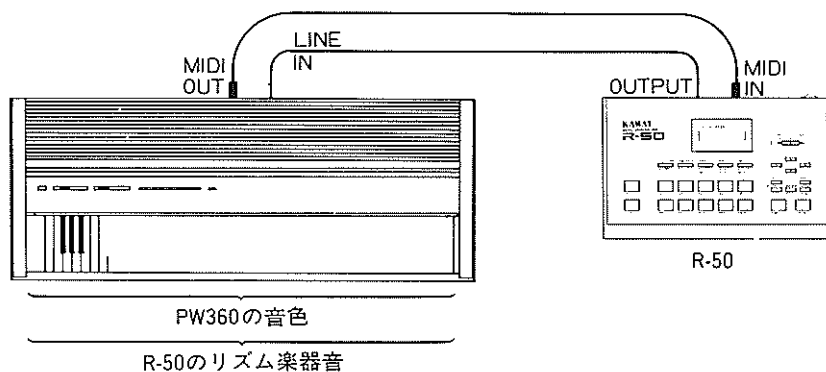
⑤ローカルコントロールON/OFFの設定及び受信　（11ページ参照）

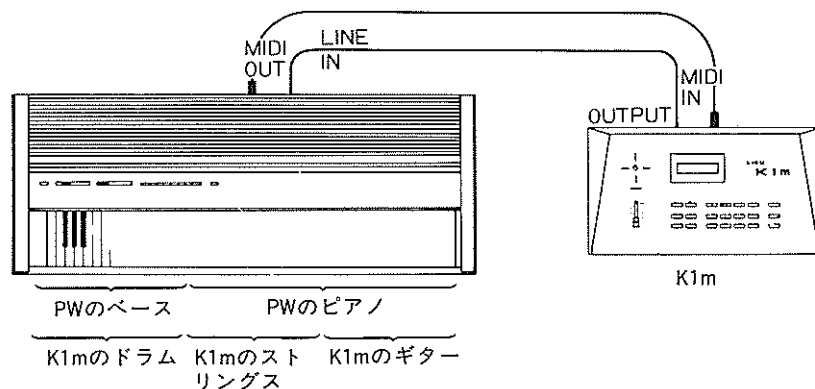
⑥ボリューム情報の受信

[2] MIDIの楽しみかたの例

①電子ピアノを演奏して他のMIDI対応キーボードとアンサンブル

（カワイデジタルシンセサイザーK1、K3、K5などとの接続例）

図のように電子ピアノのMIDI OUTとシンセサイザーのMIDI INを接続し、シンセサイザーのOUTPUTを電子ピアノのLINE INに接続すれば、電子ピアノを弾くだけで、シンセサイザーからの音も、同時に電子ピアノから出すことができます。つまり、弾いた情報がそのままシンセサイザーに伝わり、同じ強さで、同じ鍵盤をシンセサイザーで弾いた音を、電子ピアノの音に重ねて出すことができるのです。音色は、別々に指定できるので、電子ピアノのピアノ音にシンセサイザーのストリングの音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいでいろいろなアンサンブルをつくりだすことができます。またMIDI INとMIDI OUTの接続を逆にすればシンセサイザーの方を弾いて、電子ピアノの音を出すこともできます。

②ドラムマシンR-50/R-100とのプレイ

図のようにカワイドラムマシンR-50と接続すれば、R-50のリズムに合わせた演奏ができるだけでなく、電子ピアノの鍵盤をたたくことにより、R-50の楽器音も鳴らすことができます。ピアノ音と打楽器音を重ねるといった、おもしろい効果を楽しむことができます。

③音源モジュールK1mとのプレイ

上図のようにカワイシンセサイザー音源モジュールK1mと接続し、PW360のスプリット機能を組み合せれば、①のような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を、分割して出すこともできるようになり演奏の楽しさがさらに広がります。

それでは、設定モードの説明をしましょう。

●設定モードに入ると（5ページ参照）、鍵盤を押しても音が出なくなります。

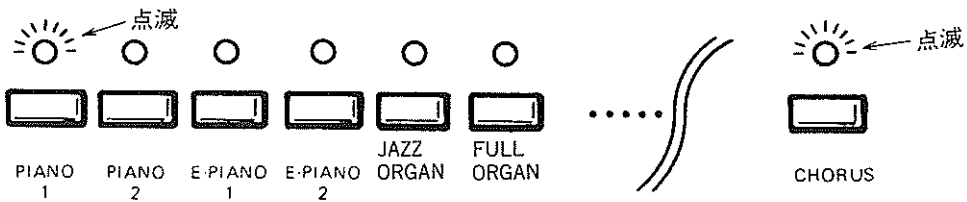
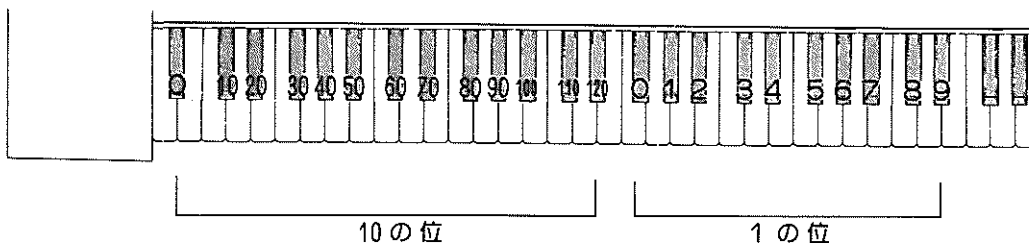
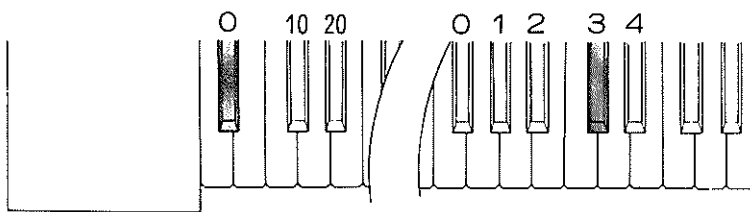
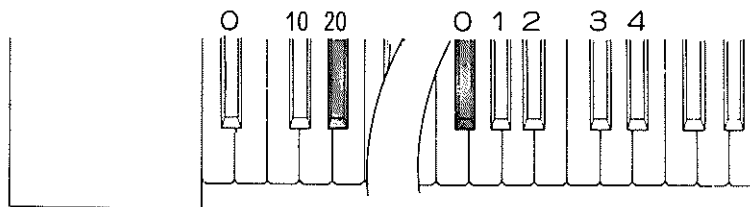
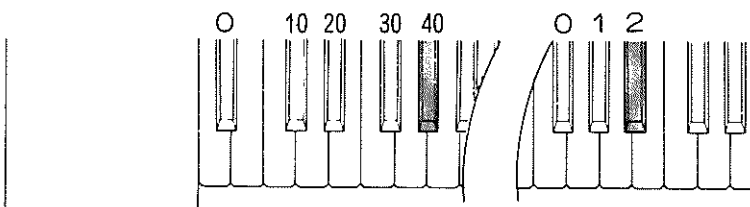
(1) プログラム（音色）ナンバーの送信

PW360には、10音色がプリセットされていますが、MIDI規格では、128音色（0～127）までのプログラム（音色）ナンバーを扱うことが出来ます。

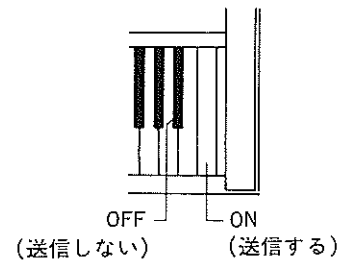
PW360に外部からプログラムチェンジ(音色変更)情報が送られてくると0～9までのプログムラムナンバーがくれば、これに対応し、PIANO 1～STRING ENSEMBLEの10音色に切り変わります。(プログラムNo.0 : PIANO 1、No.1 : PIANO 2、…No.9 : STRING ENSEMBLE)

10以上のプログラムナンバーが送られてきた時は、常にPIANO 1の音色になります。

PW360では、設定モード時に、黒鍵を使って0～127のプログラムナンバーを送信することができます。さらに、設定モードでない通常の演奏状態の時に、10個の音色セレクトボタンで0～9までのプログラムナンバーを送信することができます。音色セレクトボタンによるプログラムナンバーの送信をするかしないかも設定モードの中で決めることができます。

それでは設定モードに入ってみましょう（5ページ参照）。設定モードに入るとCHORUSとPIANO 1のボタンが点滅します。これはプログラムナンバー送信モードであることを示しています。この状態では、鍵盤を弾いても音が出ません。

プログラムナンバーの送信には、黒鍵を使用します。左端（低音部）から13個の黒鍵で10の位（0～120）、次の10個で1の位（0～9）をセットでき、10の位を押した後1の位を押すことにより、プログラムナンバーを送信します。10の位が共通なプログラムナンバーを送信する場合は、10の位を押し直す必要はなく、1の位を押し直すだけでプログラムナンバーを送信することができます。設定モードに入ったときは、10の位は0にセットされています。

次に、音色セレクトボタンでプログラムナンバーを送信するか、しないかを設定します。

PW360では、電源をONにすると、10個の音色セレクトボタンで0~9までのプログラムナンバーを送信できるようになっています。

設定モードの時、右端（最高音部）の黒鍵を押すと、音色セレクトボタンでは送信しなくなります。逆に右端（最高音部）の白鍵を押すか、電源を入れ直せば送信できるようになります。

注1）音色セレクトボタンを2個押して、デュアルの設定をする時は、右側の音色に対応するプログラムナンバーが送信されます。

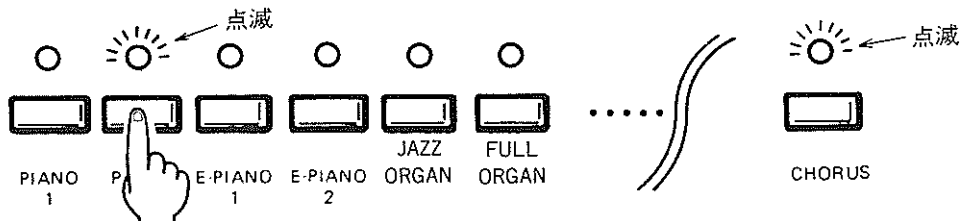
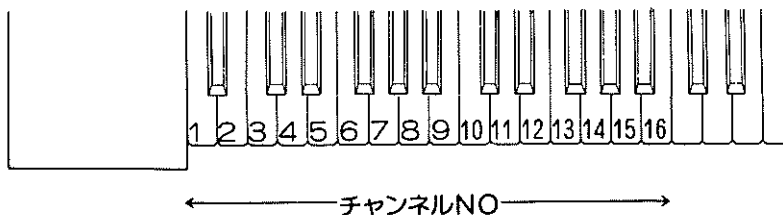
注2）スプリット使用時は、高音側の音色に対応したプログラムナンバーのみ送信されます。（低音側のプログラムチェンジは送信しません）

マルチティンバーモード（後述）がONの時は、低音側のプログラムナンバーも、高音側のMIDIチャンネル+1のMIDIチャンネルで送信します。

プログラムナンバーの設定が終ったら、その他の機能を設定します。設定をしない場合はCHORUSのボタンを押して、設定モードを解除してください。

(2) MIDI送受信チャンネルの設定

MIDI規格では、1~16の送・受信チャンネルが設定でき、基本的には、互いに同じチャンネルを持つもの同志が情報のやり取りをすることができます。

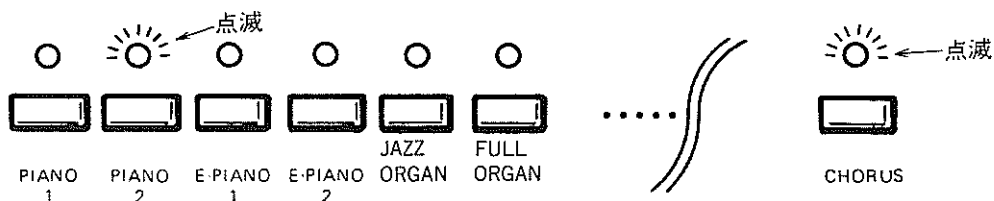
設定モードに入り（5ページ参照）、PIANO 2のボタンを押すと、PIANO 2が点滅して、MIDIチャンネルの設定モードになったことを示します。この状態では、鍵盤を弾いても音が出ません。

MIDIチャンネルの設定は左端（低音部）から16個の白鍵を使用します。

●チャンネルNOは、1~16チャンネルまで指定できます。

設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルとも、そのナンバーに設定されます。（POWER ON時は、MIDIチャンネル1. OMNI ONにセットされます。この時は、1~16のどのチャンネル情報も受信します。チャンネルの設定をすると、OMNI OFFになり、設定したチャンネル情報のみ受信します。）

MIDIチャンネルの設定が終ったら、その他の機能を設定します。設定をしない場合は、CHORUSのボタンを押して設定モードを解除してください。

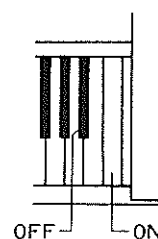
(3) マルチティンバーモードON/OFFの設定

マルチティンバーモードがONの時、MIDI信号を受信すると、受信チャンネルナンバーに対応した音色を複数同時に出すことができます。外部にQ-30などのシーケンサーを使えば、電子ピアノ1台で、複数の楽器のアンサンブル演奏をさせることができるわけです。

設定モードに入り（5ページ参照）、PIANO 2のボタンを押すと、PIANO 2が点滅して、MIDI送受信チャンネル及びマルチティンバーの設定モードになります。この状態では、鍵盤を弾いても音が出ません。

マルチティンバーモードの設定は、右側（最高音部）の白鍵を押すとON、黒鍵を押すとOFFになります。

※各音色の受信チャンネル

チャンネル1 : PIANO 1
チャンネル2 : PIANO 2
チャンネル3 : E.PIANO 1
チャンネル4 : E.PIANO 2
チャンネル5 : JAZZ ORGAN
チャンネル6 : FULL ORGAN
チャンネル7 : HARPSICHORD
チャンネル8 : VIBRAPHONE
チャンネル9 : BRASS ENSEMBLE
チャンネル10 : STRING ENSEMBLE
チャンネル11 : BELL
チャンネル12 : GUITAR
チャンネル13 : PIPE
チャンネル14 : WOOD BASS
チャンネル15 : ELECTRIC BASS
チャンネル16 : SLAP BASS

OFF ON

11～16チャンネルにも音色サンプルが設定されています。スプリット時のベース音色は、14～16チャンネルに設定されています。

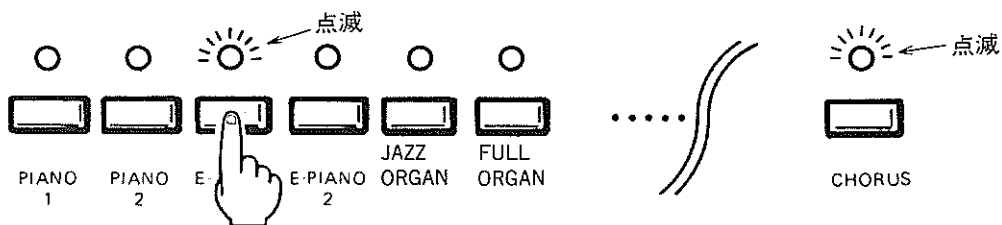
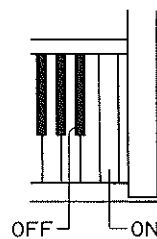
これらの音色を他のMIDI機器を使わずに聴くには、
①マルチティンバーモードをONにします。
②ローカルコントロールをOFFにします。（11ページ参照）
③本体のMIDI INとMIDI OUTを1本のMIDIケーブルで接続します。
④本体のMIDIチャンネルを、11～16チャンネルに設定します。
このように設定すると、11～16チャンネルに設定されている音色を弾くことができます。（POWER ON時、マルチティンバーモードはOFFになっています。ローカルコントロールをONにすると、現在音色ボタンで選択している音色と重ねて演奏することができます。）

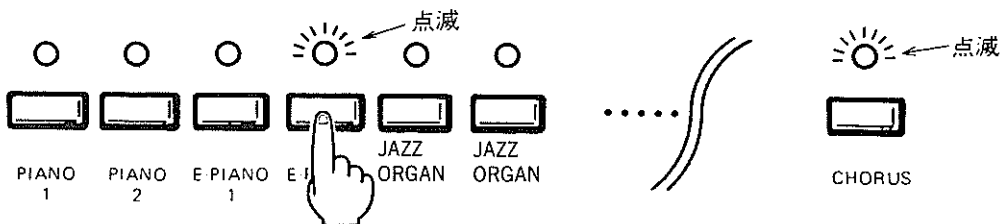
※マルチティンバーモードONの状態で、スプリットの設定をすると、MIDI情報の受信ではスプリットポイントは無視され、どの音色もフルスケールで発音します。
送信では、高音側が前項で設定したMIDIチャンネル、低音側が、そのチャンネル+1チャンネルになります。
プログラムチェンジは、高音側のチャンネルで受信し、受信するとスプリットは解除され、1音色のモードになります。
デュアル使用時も同様にプログラムチェンジを受信すると、1音色のモードになります。

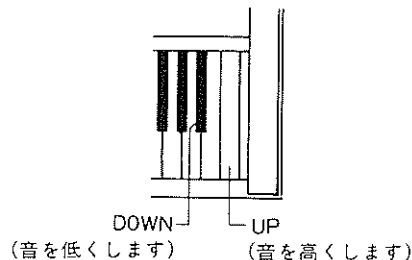
マルチティンバーモードの設定が終ったら、その他の機能を設定します。設定をしない場合は、CHORUSのボタンを押して、設定モードを解除してください。

(4) ローカルコントロールON/OFFの設定

ローカルコントロールは、電子ピアノの音源と鍵盤を切りはなすもので、OFFにすると、鍵盤を押しても音が出なくなります。外部からMIDI信号を受信したときだけ本体から音が出ます。通常の状態では、ONになっています。

設定モードに入り(5ページ参照)、E.PIANO 1のボタンを押すと、E.PIANO 1が点滅して、ローカルコントロール設定モードになったことを示します。この状態では、鍵盤を弾いても音は出ません。

ON/OFFの設定は、右側(最高音部)の白鍵と黒鍵を使用します。
黒鍵を押せばローカルOFF
白鍵を押せばローカルONになります。
また、ローカルOFFにしてもPOWER(電源)をONし直せば、ローカルONに戻ります。
ローカルコントロールの設定が終ったら、その他の機器を設定します。設定をしない場合は、CHORUSボタンを押して、設定モードを解除します。

2 チューニング調整

設定モードに入り(5ページ参照)、E.PIANO 2のボタンを押すと、E.PIANO 2が点滅して、TUNEの調整モードになったことを示します。

このモードに入ると、鍵盤を押せばこのモードに入る前に選択してあった音が出ます。(調整用の白鍵、黒鍵を除く)。他の楽器とチューニングを合わせる時は、この音を使います。音の高低の調整は、ローカルコントロール同様、右側(最高音部)の白鍵と黒鍵を使用します。これらの白鍵(黒鍵)を1回押すごとに音の高さが少しずつ高く(低く)なって行きます。POWER(電源)をONし直せば、もとの音の高さに戻ります。

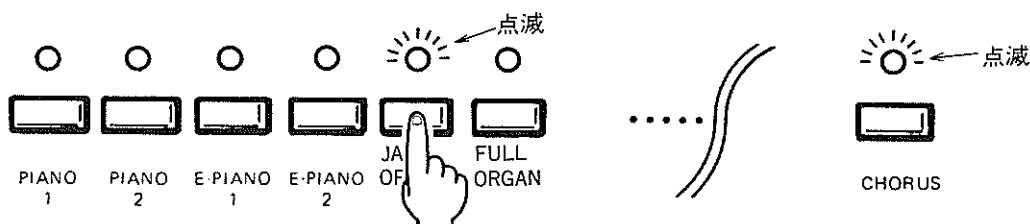
チューニングの調整が終ったら、その他の機能を設定します。設定しない場合は、CHORUSボタンを押して設定モードを解除してください。

3 音律の設定

ピアノの調律法として、最も一般的な平均律だけでなく、ルネッサンス、バロック等の時代に用いられた古典音律を簡単に本体にセットすることができます。

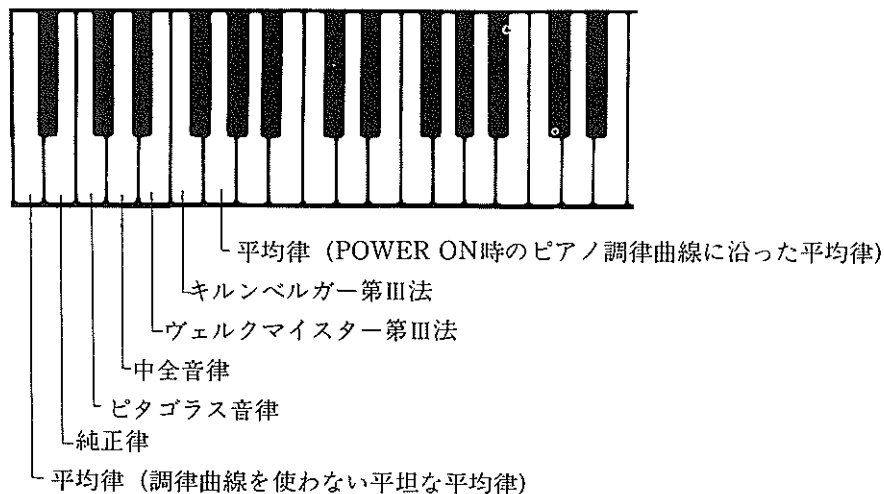
[1] 音律名と調の設定方法

通常のPOWER ONでは、ピアノの調律曲線に沿った平均律になっています。

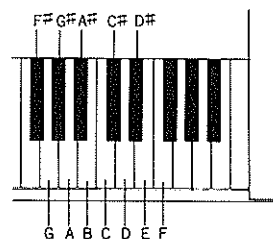
他の音律を設定するには、次の手順で行ってください。

設定モードに入り(5ページ参照)、JAZZ ORGANのボタンを押すと、JAZZ ORGANのLEDが点滅して、音律の設定モードになったことを示します。この状態では、鍵盤を弾いても音は出ません。

音律の設定は、左端(低音部)から7個の白鍵を使用します。

設定される音律は、左端から順に、平均律(調律曲線を使わない平坦な平均律)、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、ヴェルクマイスター第III法、キルンベルガー第III法、平均律(POWER ON時のピアノ調律曲線に沿った平均律)となります。

設定したい音律のわりふられた白鍵を押すと、その音律に設定されます。

また、調の設定は、右図の鍵盤を使って変えることができます。POWER ONして初めて音律設定を行なった時、調は各音律のC調になります。

この調を、例えば、Dに変えたい時は、右図のDの鍵盤を押してください。音律の設定と調の設定は、逆になっても構いません。

設定モードからもとに戻りたい時は、点滅しているCHORUSボタンを押します。すると点滅が無くなって、設定モードに入る直前の音色で演奏を再開することができます。

[2] 各音律の特長

①**平均律**：ピアノの調律法として、最もポピュラーなもので、どのように移調しても和音の響きが変わらないという特長があります。

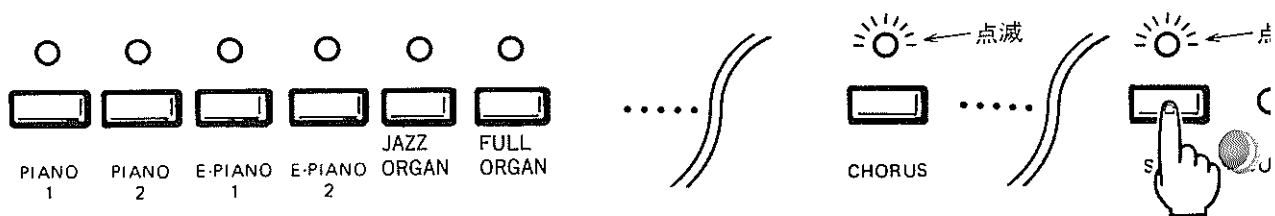
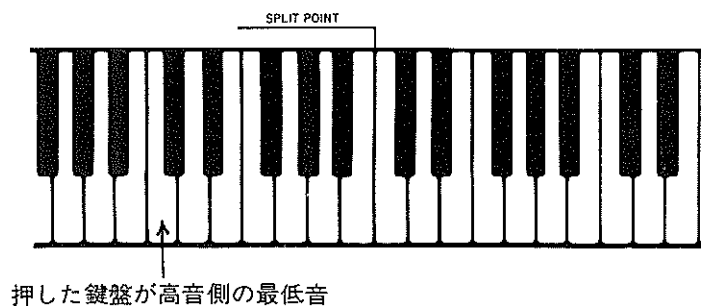
②**純正律**：3度と5度のうなりをなくした調律法で、合唱音楽では、現在でも随所にこの音律に基づいた演奏が行われています。

③**ピタゴラス音律**：5度のうなりをなくした調律法で、和音は問題が多いのですが、メロディを演奏すると非常に美しいのが特長です。

④**中全音律**：3度のうなりをなくした調律法で、純正律の特定の5度が著しく不協和であることを改良したもので、平均律よりも和音が美しく響きます。

⑤**ヴェルクマイスター第III法、キルンベルガー第III法**：調号の少ない調は、和音の美しい中全音律に近く、調号が増えるにしたがって、緊張感が高く、メロディが美しいピタゴラス音律に近づけていくもので、古典音楽の作曲家の意図した「調性の性格」を反映させることのできる調律法です。

④ スプリットポイントの変更

設定モードに入り、スプリットのボタンを押すと、スプリットのLEDが点滅して、スプリットポイントの変更モードになったことを示します。

鍵盤を押すことによって、1～88鍵中の任意の箇所にスプリットポイントを設定することができます。押した鍵盤が高音側の最低音になります。従って、一番左側の鍵盤（最低音）を押せば、全鍵高音側となります。

■主な仕様

鍵盤	木製鍵盤　８８鍵
音色	ピアノ1･2、エレクトリックピアノ1･2、 ジャズオルガン、フルオルガン、ハープシコード、ビブラフォン、 ブラスアンサンブル、ストリングアンサンブル
効果	トレモロ、コーラス
音律	平均律、純正律、ピタゴラス音律、中全音律、 ヴェルクマイスター第III法、キルンベルガー第III法
コントロール	ボリューム、ブリリアンス、トランスポーズ、デュアル、スプリット、デュアル/スプリットバランス
外部端子	ヘッドホン、エクスプレッション、ペダル（ソフト/ソステヌート、ダンパー） MIDI（IN、OUT、THRU)、LINE IN/OUT（L/MONO、R、H・Lレベル切換）
出力	20W×2
スピーカー	12cm×2、6cm×2
定格電圧	AC100V,50/60Hz
消費電力	40W
仕上げ	コスモブラック
寸法 (W×D×H) cm	138×49×82（スタンド含む）
重量	63Kg（スタンド含む）
付属品	譜面台、トップカバー
オプション	キーカバー、椅子、スタンド（ペダル付)、エクスプレッショクペダル

〔KAWAI DIGITAL PIANO〕

Date: May. 1988
Version: 1.0

MODEL PW360 MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 × **************	1 1, 3　** ×	**　オムニオン電源ON時MIDIチャンネル設定操作によりオムニオフ。
ノート ナンバー	音域	× 21-108　* **************	0-127 15-113	
ベロシティ	ノート・オン ノートオフ	○9nH　V=1-127 ×9nH　V=0	○ ×	V=1-127
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 66 67	× ○（右ペダル） ○（左ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ × ○	ボリューム ダンパー ソステヌート ソフトペダル
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○（0-127） **************	○（0-127） （0-9）	10-127=0
エクスクルーシブ		×	×	
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× ○ ○ ×	○ ○ ○ ×	
備考		*　15-113 トランスポーズによって変化する。		

モード1：オムニ・オン、ポリ　モード2：オムニ・オン、モノ　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　モード4：オムニ・オフ、モノ　×：なし